

令和7年度第2回島根県立少年自然の家運営委員会 議事要旨

- 1 開催日時 令和8年2月20日（金）13時30分から15時30分まで
- 2 開催場所 島根県立少年自然の家 第1研修室
- 3 出席者 石山委員、鍛冶委員、花田委員、佐田尾委員、田中委員
内藤委員、南口修委員、南口周哉委員、堀委員（9名）
（欠席委員：河村委員、横野委員、山口委員、山下委員）
事務局職員9名

| | 意見・要望等 | 回答 |
|---|---|--|
| 1 | 【主催事業参加者の傾向について】 いろいろな事業の参加者について、傾向として江津市の子供が多いのか、それとも仲間と一緒に参加しているのか。もし自分の意思で参加し、新しい友達作りに役立っているのか。内訳が知りたい。 | 傾向としては県西部の子供が多いが、江津市が突出しているわけではなく、出雲市、松江市、浜田市が多い。なお、友達と一緒にあれば参加するという条件での申し込みはお断りしている。自分の意志で参加し、新しい友達作りに役立つことに期待している。 |
| 2 | 【冬場の取組について】 研修者数について、12月、1月が減少していることに対して人数を増やすための取り組みや計画があるのか教えてほしい。 | 12月、1月は青少年教育施設は、閑散期と言われているが、何もせずに待っているわけではなく、こちらから出前講座という形で各学校や公民館、コミュニティセンター等に出向く活動もしている。 |
| 3 | 【中学校と高等学校の利用数について】 中学校の利用が高等学校より少ない。高等学校の利用者はどんなことをしているのか。 | 中学校の場合、年度初めの5月頃仲間づくりを目的に利用されている事例があった。高校の利用は新年度のオリエンテーション的な活動や部活動での合宿などで活用していただいている。高校の方が多い理由は、近隣の高校の利用が多くなっているためである。 |
| 4 | 【情報の周知方法について】 各小中学校に対して各主催事業の宣伝はどのような方法でしているのか。発信方法を参考にしたい。 | 年度初めと前期、後期に分けてチラシをお配りしている。市町村によって違うが、電子と紙媒体での配布方法を利用している。その他、ホームページやLINE、インスタグラムにて宣伝している。主催事業に参加した子供たちにアンケートをとると、チラシを見て参加した子供が一番多い。保護者がホームページ等でみて勧めることもある。 |
| 5 | 【事業の開催回数の増加について】 森と海の集いは、定員の2倍以上の応募者があったとのことだが、これだけ素敵な事業に来ることができなかった方々はもったいないと思う。今後、回数を増やす等の考えはないか。 | 職員の負担を考えると回数を増やす等の対応は難しい。 |
| 6 | 【指導者の研修会について】 安全対策として、子供たちの自然体験を保証する意味でも、指導者の研修会を実施する考えがあるか。 | 当所の事業として指導者向けの研修を実施する考えはないが、既存の地域の体験活動支援事業により、指導者の方への支援についてはカバーしていく。 |
| 7 | 【安全管理について】 渡津町内でサルの出没があったが、少年自然の家ではサルやクマ等の目撃情報があったか、対策を講じたのか。また、目撃情報があった場合はインスタ等で周知しているか。 | 今年度、クマの目撃情報はなかった。サルやシカ、イノシシの目撃情報はあった。クマ対策として、大きな音を出すエアホーンや熊スプレー等を用意している。さらに、半径3キロメートル以内でクマの目撃情報があった場合は3日間野外活動を禁止している。インスタでの周知はしていない。 |
| 8 | 【アウトリーチについて】 地域によって体験格差が生まれていると思う。12月から1月にかけて各教育委員会を回ってアウトリーチ的な事はできないのか。少々の困難を乗り越えた体験活動は学校ではなかなかできない。自然の家がない地域でもできるように工夫できないか。 | 各教育委員会を回ることは行っていない、県西部の町の児童クラブに出向いてもらえないかといった声も出ている。こちらから出向き体験プログラムを提供するなどアウトリーチ型の支援事業をすすめていきたい。 |
| 9 | 【ジュニアサマーキャンプについて】 ジュニアサマーキャンプのいかだづくりはすごい。江津市では以前、江の川下りをしていたが、今はしていない。どうかこういった体験を継続してほしい。 | 6名程度乗れるいかだを子供たち自身がつくり、1キロメートル程度の川下り体験をさせた。安全対策として、救助艇、サップ、カヌーを用意し万全を期した。 |

| 運営委員の皆様からのその他のご意見 |
|--|
| 子供たちの人とかかわる力がすごく弱くなっていると感じているところであるが、本校の児童が、自然の家研修にて、とりわけ火おこしなど仲間づくりができ、すごく自信に満ちて帰ってくる。自然の家には大きな期待をしている。 |
| 主催事業の実施報告書には成果だけでなく課題も記載することでより良いものにしてほしい。 |
| 毎年5月、6月の気候のいい時に日帰り利用しているが、宿泊者優先で予約が取りづらい。 |